

線射技



五月十二日

夜、バンクラ

デシユの首都

ダツカから北

方へ百二十*

ほどのタンカイル地方と

ジャマルプール地方の五

十一カ村を電巻が襲つ

た。

死者が五百人以上、負

傷者は四万人以上で、十

万人が家をなくし、一週

間たつても通信手段は切

断されたまま、食料・飲

料水が不足している、と

伝えられた。

AMDAが被

害状況を最初に

知ったのは、バンクラデシユ支

部からの緊急フアクス連

絡による。現地支部の動

きは速かった。十四日に

は医師二人、看護婦二

人、医療助手二人、運転

手二人で被災地の調査を

行い、十五日朝には医療

ニーズについてAMDA

本部へ報告した。

パートナ―

シユ・チームと合同し

て、負傷者の治療や簡単

な外科手術、医薬品や浄

水用タブレットの無料配

布などを行っている。

バンクラデシユ側の要

員は、ダツカの「日本バ

ンクラデシユ友好病院」

のメンバーだ。この病院

は日本に留学していた医

師三人が帰国して開設に

こぎつけた病院だ。

彼らは病院を経営して

生活の糧を得るとも

に、その余力をAMDA

の活動に振り向けてい

る。病院の一室に支部事

務所を置いている。

おかげで、日本から人

員だけを緊急派遣するよ

うな事態になつても、こ

の病院を通して医薬品や

小手術機器を調達するこ

とができる。つまり、A

MDAがバンクラデシユ

でプロジェクトを組む際

の後方支援基地の役割を

果たしているのだ。

今回も、改めて協力機

関が現地国にあることの

重要性が証明された。実

のある救援活動を行つた

めに、各国のNGOとの

協力関係確立の必要性を

痛感している。

(小林 米幸 II AMD

A・アジア医師連絡協議

会日本副代表)

